

◆ 平成28年度 活動報告シート ◆

団体名：荒川緑地エコ・ネット

19A-30

代表者：代表 小林隆子

URL :

1. 活動が必要とされた状況

さいたま市域、荒川左岸河川敷や見沼田んぼは自然の最前線です。開発の影響は勿論ですが、水環境の変化が深刻です。また、外来生物の猛威で在来生物が消えています。地域本来の生き物や希少植物が纏まって残っている場所（ホットスポット）の保護をし、地域本来の動植物の遺伝子を残したいと活動しています。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- ◆荒川中流域左岸（荒川彩湖～治水橋）におけるニホンアカガエルの保護（3名）
（1月～）保護地のビオトープ整備。（3～6月）卵塊調査・乾燥化する場所の卵塊をビオトープの容器で保護。（1～8月）カエル類の調査活動
- ◆湿生草原の保護（3名）
（2～5月）不法投棄物除去・（2～5月）外来種の除去・（1月）オギーヨシの刈り払い作業
- ◆桜区生き物探検隊（観察会）
4/24（4名）・5/22（10名）・6/26（11名）・9/25（9名）・10/23（17名）・11/27（3名）・
- ◆戸田ヶ原自然再生事業（戸田市）のサポーター（1名）
（月2～4回）荒川流域で開発に掛かった希少植物を救出し戸田ヶ原へ移植保護。また、戸田市のボランティアと保全管理作業（月1～2回）

3. 活動の成果

◆カエル類の調査を荒川中流域左岸と見沼田んぼで2003年から実施しています。荒川中流域左岸ではアズマヒキガエルが2008年の産卵を最後に消え、ニホンアカガエルも我々の保護活動が無ければ、地域絶滅していました。いづみ高校生物部に分散保護をお願いしています。◆湿生草原のホットスポットの保護は、「田島ヶ原サクラソウ自生地」を支えるためにも、必要な活動です。◆戸田ヶ原自然再生事業が始まり7年になります。やっと成果が確認できるまでになり、市民に喜ばれています。



4. 今後に残された課題

失った自然を再生し維持することの難しさを、自然再生事業で体験しました。「壊さない努力」が必要なことを訴えて行きたいと思います。